

出版物販売会社における漢字情報システム

我が国は世界第2位の出版国であり、書籍も雑誌も共に1兆円を超える産業となり、'77年度では書籍48,000点12億冊、月刊誌、週刊誌合わせて1,600点25億冊、新刊図書24,000点（出版年鑑）という、膨大な量に達している。

出版物販売会社いわゆる大取次は、これら膨大な出版物を、出版社から受け入れて、全国の小売書店に配送する重要な役を果たしているが、膨大かつ多種類の出版物を、適正かつ迅速に配送するため、当然コンピュータによる処理が行なわれている。

しかし、出版物は商品の性格からいって、書名、出版社名など紛らわしいものが多く、従来の片仮名を主体とした処理方法では、多くの不便があり、漢字利用への要望が強まっていた。

漢字情報システムに要求される機能は、(1)漢字を処理しやすい形に入力する漢字入力装置と、漢字を目的に合った形に処理するソフトウェア。(2)膨大な諸帳票の漢字印刷を高速度・高印字品質で出力する漢字プリンタであり、これらを汎用コンピュータシステムと有機的に結びつけ、容易に処理する機能をもつことである。

日立製作所が東京出版販売株式会社に納入した高速漢字プリンタシステムH-8196は、これらのニーズを十分に満足させるものであり、利用効率を高めるソフトウェアとして、VOS2(Virtual Storage Operating System2)の漢字システム・サポート・ソフトウェアが用意されている。

このシステムの処理内容は、まず(1)



漢字入力装置H-1811で漢字情報を紙テープに作成し、(2)紙テープの漢字情報を蓄積し、(3)これにより帳票データとしての漢字情報を出力する。(4)漢字情報プリンタシステムが、出力された漢字情報を帳票フォーマットに印刷し、配送センタで発送作業が行なわれる。という順序になる。

このシステムの採用によって、次に述べるような効果が挙げられた。すなわち、諸帳票が漢字表現によって見やすくなり、(1)社内では事務・作業の能率を高め、社外的には取引先のサービス強化に役立った。(2)高速印刷の特長を生かして、従来人手に依存していた

宛名紙を、荷姿個数に応じた必要枚数だけ、タイムリーに印刷できるようになった。(3)必要情報を人手なしに記載することにより発送作業が合理化され、事故の防止、むだの排除ができ省力化に結びついた。(4)片仮名では困難な諸資料の提供が可能になり、営業活動に大きく寄与した。また、新しいアプリケーションとして、出版情報（図書目録、書籍検索リストなど）の文章処理により、出版情報提供サービスの道も開かれたが、更により良いシステムの確立を目指して、鋭意努力が続けられている。

